

平成19年度自然公園ふれあい全国大会大会概要

- 1 趣 旨 自然に対する理解を深め、自然公園の適正利用の普及を推進するとともに、自然を大切にすることを育む
- 2 開催日 平成19年11月17日(土)、11月18日(日)
- 3 開催場所 兵庫県神戸市
兵庫県公館(神戸市)
六甲山ホテル(神戸市)
六甲山山上 ほか
- 4 日時及び行事概要

11月17日(土)

14:00~14:30 オープニングセレモニー[兵庫県公館]
14:30~15:40 式典[兵庫県公館]
開会宣言
式辞
自然公園関係功労者表彰
皇族のお言葉
誓いの言葉

17:30~18:30 レセプション[六甲山ホテル]

10:00~17:00 体験エコツアー[六甲山山上ほか]

11月18日(日)

8:00~16:50 体験エコツアー[六甲山山上ほか]

14:00~16:30 エコツーリズムシンポジウム
第3回エコツーリズム大賞表彰
- 5 主 催 環境省、兵庫県、神戸市、財団法人 国立公園協会
- 6 参加人員 約10,000人(予定)
○皇族(常陸宮同妃両殿下御臨席)
○招待者
国会議員、関係各省庁、各都道府県、関係市町村、兵庫県議会議員、
県内各界代表者、神戸市関係者、大会協力団体、自然公園関係功労者等
○体験エコツアー参加者等、大会出演者等
○一般参加者

平成19年度自然公園関係功労者
環境大臣表彰受賞者（九州管内）

別紙2

受賞者	功績
<p>川浪 誠 (69歳) (佐賀県)</p>	<p>玄海国定公園において、長年、希少植物の調査・保護、利用者のマナー指導や事故防止、観察会の実施・指導など自然保護思想の普及啓発に尽力。</p>
<p>渡部 廣善 (70歳) (大分県)</p>	<p>阿蘇くじゅう国立公園くじゅう山系において、長年、利用者へのマナー指導、登山道の補修や倒木の除去など利用の安全性向上、関係機関への情報提供など、事故防止に尽力。</p>
<p>高村 貴生 (71歳) (熊本県)</p>	<p>阿蘇くじゅう国立公園阿蘇地域において、長年、遭難防止のための登山道の点検、関係機関への情報提供などのほか、阿蘇の自然を保護し伝えることを目的とした団体の設立に関わるなど、自然保護思想の普及啓発並びに自然保護活動に尽力。</p>

※合計3者

平成19年度
第3回エコツーリズム大賞
表彰式

平成19年11月18日(日)

第3回エコツーリズム大賞受賞者

【大賞】 認定特定非営利活動法人 霧多布湿原トラスト

【優秀賞】 いしかわ自然学校

かいとうゆうみん
海島遊民くらぶ (有限会社 オズ)

させぼパール・シー 株式会社

【特別賞】 体験村・たのはた推進協議会

二戸市楽しく美しいまちづくり推進委員会

裏磐梯エコツーリズム協会

有限会社 リポーン (エコツーリズム・ネットワーク)

高山市乗鞍山麓五色ヶ原の森

はりえしょうず さと
針江生水の郷委員会

させぼパール・シー 株式会社

(長崎県佐世保市)



【応募概要】

エコツアーに活用する海域を調査・研究し、自然環境の保護を前提に、絶滅危惧種等が生息する貴重な地域であることにも触れながら、プログラムを実施している。さらに漁業従事者との連携を図り生活環境への配慮も欠かさず、ボランティアガイドの研修等も行っている。

【講 評】

一民間企業の取り組みとしては、環境保全や地域活性化への配慮がよくなされており、地域の自然環境や社会を資源として、継続的に経営されていることが評価される。

モデル事業終了後も、事業体としてエコツーリズムの普及に努められ、ボランティアガイドの研修などを定期的に行っている。特に、地域の自然環境に関する調査や研究を継続的に実施し、それを保全活動やガイダンスへ応用する姿勢は、高く評価される。

第3回エコツーリズム大賞

—概要—

エコツーリズム大賞の趣旨

エコツーリズムに取り組む個人、事業者、団体、自治体などを対象に、優れた取り組みを表彰し、広く紹介するもので、全国のエコツーリズムに関連する活動の質的・量的向上並びに、情報交換等による関係者の連帯感の醸成を図ることを目的とします。

第3回エコツーリズム大賞の経緯

- 平成19年 8月24日 公募開始
- 10月 4日 応募締め切り 64件の応募
- 10月15日 審査委員会開催 大賞1点、優秀賞3点、特別賞6点を選定
- 11月 9日 受賞者の公表
- 11月18日 表彰式(エコツーリズムシンポジウム)

審査委員会

- 下村 彰男 東京大学大学院農学生命科学研究科教授 (審査委員長)
- 奥山 隆哉 社団法人 日本旅行業協会理事・事務局長
- 海津 ゆりえ 特定非営利活動法人 日本エコツーリズム協会理事
- 桜井 義維英 特定非営利活動法人 自然体験活動推進協議会理事
- 佐藤 博康 松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科学科長・教授

第3回エコツーリズム大賞募集要領(抄)

■ 表彰対象

地域の自然環境や歴史文化を保全しつつそれらを体験する「エコツーリズム」に関連し、環境保全活動を取り入れた取組みや、様々な自然体験（農林水産業体験や生活文化体験を通じた自然環境への理解につながる活動なども含む）の取組み、その他の取組みについて、環境保全や地域活性化、良質な体験提供等の視点から特に優れた活動を行っている個人、事業者、団体、自治体などを対象とする。

■ 応募資格

- (1) エコツーリズムに取り組む個人、事業者、団体、自治体（ツアー事業者、宿泊業者、交通事業者、コンサルタント、地域団体、地域のグループ、地方公共団体など）
- (2) 経験年数、法人格の有無、種類を問わない。
- (3) 自薦・他薦の別を問わない。
- (4) 過去の各賞受賞者も応募資格がある。

■ 審査方法

エコツーリズム大賞審査委員会において、別に定める審査基準により評価を行う。

総合的に優れた取組みに対しては『エコツーリズム大賞』、それに準じて総合的に優れているもしくはリーディング的な取組みに対しては『エコツーリズム優秀賞』、萌芽的もしくは特定の分野での優れた取組みなど奨励すべき取組みに関しては『エコツーリズム特別賞』を授与する。

■ 審査基準

エコツーリズムに関わる取組みの実績を有し、その推進に貢献している個人、事業者、団体、自治体、地域等に対し、次の観点から審査を行う。

- (1) 地域の体験または情報が良質に提供されているか
- (2) 地域資源の保全と持続的利用に向けた取組みがなされているか
- (3) 地域の振興や活性化に貢献しているか